

## 「もっこすプラン2009」の重点実施事項

### 【教育に関する事項】

#### 1 優秀な学生確保のための入試広報の充実・入学選抜制度の改善

##### [具体的取組例]

- ・ 平成21年度は宮崎県において、入試広報を兼ねた熊本県立大学みやざき講演会を開催する。また、福岡県をはじめその他九州各県での実施の可能性を検討する。
- ・ 県外での知名度向上を目指し、熊本県立大学同窓会・紫苑会、熊本県人会との連携等を検討し、効果的な広報展開を図る。
- ・ 「大学案内」に、首都圏、九州・山口の受験生及び外国からの留学生を意識したページを新たに設ける。
- ・ 大学院入試に関しては、長期履修制度、昼夜開講制、TA制度に加え新たに導入したRA制度と学会発表支援制度など、大学院生に対する経済的支援を充実し、併せて社会人に対する広報を継続して実施し、志願者の確保に努める。
- ・ 優秀で多様な学生を確保するための奨学金制度のスタートに合わせ、制度の適切な運用と広報を十分行う。
- ・ 高等学校進路指導担当者からの意見収集や新入生アンケートを継続して実施し、その結果から高等学校の要望を正確に把握し、今日的ニーズに応えられる選抜制度を検討する。
- ・ 優秀で多様な学生を早期に確保する観点から、推薦入試、AO入試（※1）のあり方について検討する。
- ・ 多様な人材を受け入れるための選抜制度の可能性について全学的な視点で検討を行う。

#### 2 モデル高校との取組を中心とした高大連携の推進

##### [具体的取組例]

- ・ 高大連携のモデル校と、先行モデルとなる取組を継続して実施する。
- ・ 新たに私立高校のモデル校である熊本信愛女学院高校との高大連携に取り組む。
- ・ 平成21年度から開設される中高一貫校との高大連携のあり方について、県教育委員会及び関係高校と協議を行う。
- ・ モデル校との取組成果について、熊本県高等学校長会における協議を継続して行う。
- ・ 高大接続教育に関するオープンシンポジウムを開催する。
- ・ AO入試や推薦入学の合格者を対象とした入学前学習支援プログラムを継続して実施する。
- ・ 高大連携"SUMMER COLLEGE"を継続して実施する。

### 3 キャリアセンターの設置及びキャリアデザイン教育の推進

[具体的取組例]

- ・ 就職センターをキャリアセンターに改組し、センター長及びキャリアコーディネーターを置き、学生に対するキャリアデザイン教育と就職支援等のキャリアサポートの推進を図る。
- ・ キャリアセンターを中心にキャリアフォリオの活用、普及方策を検討、実施する。
- ・ キャリアセンター開設を記念し、フォーラムを開催する。

### 4 「もやいすと」育成プログラムの充実、特に段階的プログラムの構築による地域に貢献する人材の育成とインターンシップや各学部フィールドワークとの連携

[具体的取組例]

- ・ 「もやいすとジュニアコース」では、「熊本の文化と自然と社会」を教養教育の地域理解科目群「新熊本学」の科目として提示し、希望する学生全員の受講が可能な体制を整える。
- ・ 「もやいすとシニアコース」においては、キャリアデザイン科目群の「インターンシップ」において、包括協定自治体、NPO 等に派遣する「地域インターンシップ」の実施体制を整備し、実施する。また、各学部におけるフィールドワークや演習科目について地域との連携を強化し実施する。
- ・ 「もやいすとスーパーコース」では、地域課題の解決に向けた具体的方策等をテーマにした卒業研究等に結びつける。
- ・ 各学部で1年次から2年次にかけて実施するフィールドワークを地域活動プログラムとして位置づけ実施する。

### 5 大学院の教育力向上のための大学院委員会の設置、文学研究科英語英米文学専攻の博士課程設置届出

[具体的取組例]

- ・ 教務委員会の専門委員会として位置づけられていた大学院専門委員会について、平成21年度から各研究科長を構成員とする大学院委員会に改組し、全学的な視点から大学院教育の管理運営を行う。
- ・ 大学院教育の充実を図るため、文部科学省に文学研究科英語英米文学専攻博士課程設置届出を行う。
- ・ 新たに設けた大学院生の学会発表支援制度により、大学院生の国際会議・学会等での研究発表及び参加を奨励・支援する。

### 6 学問の進展や時代の変化、社会の要請、学生のニーズに柔軟に対応した教育組織の見直し

[具体的取組例]

- ・ 学問の進展や時代の変化、社会の要請、学生のニーズに対応した学部・学科、大学院研究科の将来のあり方について検討する。

### 【研究に関する事項】

## 7 学部横断的研究の実施や外部研究資金獲得支援など学長特別交付金制度の効果的な運用

[具体的取組例]

- ・ 平成20年度の点検評価結果を踏まえて、平成21年度の学長特別交付金制度の運営を行うとともに、平成20年度事業の成果発表会を開催する。
- ・ 「天草プロジェクト」については、最終年度として研究成果の取りまとめを行い、報告会を開催する。
- ・ 教員提案事業については、外部研究資金獲得に繋がる研究を重点的に支援する。

## 8 科学研究費補助金等外部研究資金の全教員応募と当該補助金獲得のための組織的な支援の推進

[具体的取組例]

- ・ 科学研究費補助金等の外部研究資金について、全教員が応募することとし、応募に向けた準備のための説明会等の開催や公募情報の収集・提供を行う。
- ・ 学部長、研究科長を中心に、外部研究資金獲得に向けた意識啓発を行う。
- ・ これまでの実績を点検・評価し、目標達成に向け組織を設けて実効性のある対応策に取り組む。

## 9 研究者個々人の研究実績の積み重ねによる大学研究力の向上

[具体的取組例]

- ・ 表彰制度に基づいた運用を図る。
- ・ 平成21年度予算編成方針に基づき、教育研究費の適正配分を行う。
- ・ 教員の研究水準の向上のため、教員の海外・国内研修（留学）に関する基準に基づき、海外・国内研修（留学）を実施する。
- ・ 教員の研究成果発表の機会を確保するため、国内学会発表のための旅費を適正に配分する。

### 【地域貢献に関する事項】

## 10 包括協定を軸とした教育研究の場としての実践的取組の推進

[具体的取組例]

- ・ 包括協定自治体等を中心に、地域をフィールドとした学際型研究や受託研究などを推進する。特に「天草プロジェクト」については、最終年度として研究成果の取りまとめを行い、報告会を開催する。包括協定自治体や企業等との連携によ

り、環境・地域づくりなど協定に掲げる各種の取組を継続的に推進する。

- ・ 熊本県農業研究センターとの包括協定に基づく各種取組をはじめ、県の各試験研究機関等との連携を一層推進する。
- ・ 「地域実学主義」に基づく教育の場として、「KUMAJECT」等包括協定自治体をフィールドとした調査・実習や「環境学校」等企業と連携した取組などについて、学生に広く参加の機会を提供する。

## 11 「くまもとさんちの食育ビジョン」に掲げたプログラムの全学的な推進

[具体的取組例]

- ・ 食環境研究情報室を中心に学食を活用した食育の推進、食育セミナーの開催、食に関する研究の推進等、食育ビジョンに掲げた具体的な取組を継続して実施する。
- ・ 食と農に関する熊本県や包括協定自治体等との連携をさらに強化し、協働で各種取組を実施する。
- ・ 平成22年の食育関連の学会（日本食育学会・食品衛生学会）の本学開催に向けた準備をする。

## 12 公開講座・シンポジウム・学会等の積極的な誘致・開催による「キラリと光る」知の拠点の形成

[具体的取組例]

- ・ 研究成果報告会をはじめとする各種公開講座を積極的に実施する。
- ・ 県土が抱える諸問題の解決に資するため、「海洋資源」「中山間地域」等本学の特色を生かしたフォーラムの開催を検討する。
- ・ 平成22年の食育関連の学会（日本食育学会・食品衛生学会）の本学開催に向けた準備をする。
- ・ 客員教授や協力講座提供企業参加による公開講座を包括協定自治体において実施する。
- ・ 授業公開講座をはじめとする各種公開講座、地域連携学習会などによる社会人の学び直しニーズ等に対応したCPD教育や包括協定自治体の人材育成ニーズに対応した研修等を積極的に推進する。
- ・ 地域学習システムの核となる拠点形成に向けた取組を進める。

### 【国際交流に関する事項】

## 13 国際交流ビジョンに基づく全学的・実践的な取組、特に、「熊本で世界と向き合う」取組の推進

- ・ 学生の海外への関心を高めるため、授業において帰国留学生等による発表・報告を行うなど国際交流に参加しやすい環境を整える。
- ・ 近年の県内における外国人住民の増加傾向に鑑み、国際交流関係団体や地域住

民と連携し、多文化共生の地域づくりに貢献する。

- ・ 協定校との交流活動の推進のため、祥明大（大韓民国）との学術フォーラムを本学において開催する。

### 【学生支援に関する事項】

#### 3 キャリアセンターの設置及びキャリアデザイン教育の推進（再掲）

[具体的取組例]

- ・ 就職センターをキャリアセンターに改組し、センター長及びキャリアコーディネーターを置き、学生に対するキャリアデザイン教育と就職支援等のキャリアサポートの推進を図る。
- ・ キャリアセンターを中心にキャリアフォリオの活用、普及方策を検討、実施する。
- ・ キャリアセンター開設を記念し、フォーラムを開催する。

#### 14 経済的支援の充実

[具体的取組例]

- ・ 経済的困窮世帯の学生に対し、寄附金募集により造成を予定している基金を活用した奨学金給付を検討するとともに、大学が行う各種業務の補助のために学生アルバイトとして雇用するなどの経済的支援を行う。

### 【業務運営に関する事項】

#### 15 地域連携センターのあり方検討

[具体的取組例]

- ・ 地域連携センターの機能や組織などの将来のあり方について検討する。
- ・ 現在学長が兼務している地域連携センター長については、教員の中から選任する。

### 【財務会計に関する事項】

#### 16 寄附金募集による新たな基金の造成

[具体的取組例]

- ・ 多様な収入源確保策の一つとして寄附金を募集し、奨学金等の原資とするための基金の造成を図る。

### 【大学情報の公開・公表に関する事項】

#### 17 戦略的広報活動の展開、特に県外での知名度を高める取組の推進

[具体的取組例]

- ・ 宮崎県において、大学広報を兼ねた熊本県立大学みやざき講演会を開催する。また、福岡県をはじめその他九州各県での実施の可能性を検討する。

- ・ 創設を予定している熊本県立大学未来基金（仮称）への寄附金募集を図るため、キャンペーン期間を設け重点的に広報活動を開始する。
- ・ 「大学案内」に首都圏、九州・山口の受験生及び外国からの留学生を意識したページを新たに設ける。
- ・ 県外での知名度向上を目指し、熊本県立大学同窓会・紫苑会、熊本県人会との連携等を検討し、効果的な広報展開を図る体制を整備する。

### 【快適キャンパス（施設設備等）に関する事項】

## 18 環境に配慮し、ユニバーサルデザインを取り入れた快適かつ安全なキャンパスづくりの推進

### [具体的取組例]

- ・ キャンパスづくりについては、建物保全計画及び設備更新計画に基づき、平成21年度は、学内施設の耐震化に向けた取組を行うとともに、空調関連機器の更新、建物の維持補修及び教育機器の更新を行う。
- ・ セグメント単位で計測している電気使用量のデータを活用し、CO<sub>2</sub>削減に向けた取組を行う。